

期待と不安 各地で集会



裁判員制度開始を告知するＪＲ山手線のラッピング車両＝東京都渋谷区のＪＲ恵比寿駅で20日、手塚耕一郎撮影

裁判員制度のスタートを前に、東京都内では20日、刑事裁判の在り方を問う集会や、制度に反対するイベントが開催された。冤罪を訴える受刑者罪！ 5・20大集会では、同会の鈴木亜英（すずきあひ）が

中央本部会長が「国民の目線に立った裁判が実現すれば良い」と制度への期待を語った。一方で、取り調べの可視化（全面録画）が実現せず、自白偏重の捜査が冤罪の温床になっているとして「日本の刑事司法を正さねばならない」とも訴えた。弁護士や有識者らが呼びかけ人を務める「裁判員制度はいらない！ 大運動」は20日夜、東京地裁周辺でデモ行進した。呼び掛け人の一人、高山俊吉（たかみ しのぶ）弁護士が「裁判員制度に納得しないという声を沿道に送ろう」とあいさつし、約600人（主催者発表）の参加者らは「人を裁くことを押し付けるな」などとシュプレヒコールを上げた。

【武本光政、松本光央】